

Leader's TOPICS

水環境の課題と子どもたちの体験学習

水環境部会長 吉村美男



地球は誕生から 46 億年、私たちが住んでいるこの地球は「水の惑星」とも言われ、海域面積が全体のほぼ 70% にも及ぶ「水」が豊かな地球です。近年この海の環境について深刻な海洋汚染の報告がしばしば聞かれます。海水の汚染は河川の汚れに端を発しており、その元凶は古く、戦後復興の活発な産業活動や、生活環境の進化により多くの廃棄物が河川から海へ流出しました。生産活動の工場廃水、家庭から出る生活排水、ゴミなどが川を汚し、一時は死の川と呼ばれヘドロなどで悪臭を発し、川辺に近寄ることができない時代がありました。1970 年（昭和 45 年）の海洋汚染等に関する法律が施行されたことが契機に、河川の環境改善への義務感から自治体、企業や市民の努力で徐々に河川の汚れが改善したことにより、水辺で子どもたちが遊ぶ姿が見られるようになりました。

しかし、海洋汚染への懸念は、汚染当時のゴミや汚れが消えたわけではなく、海では分解され希釈されてはいるものの、未だに海洋を漂っています。近年海洋汚染として問題視されているものに「マイクロプラスチック」があります。プラスチックのゴミは太陽の紫外線や波にもまれ砕かれて海底に沈んでいるものや、マイクロプラスチック（5mm以下の破片）として海の中を漂い、シラスなど小魚が食べ、さらにその小魚を大きな魚が食べ、その魚を我々人間が食べる食物連鎖で人体の中に取り込むことが大きな海洋汚染の環境問題として取り上げられております。県の環境科学センターでも相模湾を中心に「マイクロプラスチック」の調査研究に取り組んでおり、当会でもこの調査の一部に協力しております。

国連の持続可能な開発目標 SDGs でも「14.海の豊かさを守ろう」と提唱されており、**我々は**海の環境保全に対して真剣に取り組む必要があります。

当会の水環境部会では、次世代を担う子どもたちが水環境を体験的に学ぶ教室を実施しています。地球上の水循環系をはじめ、私たちが生き続けるために必要な水の条件、身近な生活環境での水辺の生き物たちの生態系や水質などについて体験的な学習を行うことにより、子どもたちに「水」を大切に作る動機付けを行っております。

具体的には、はまぎんこども宇宙科学館の環境体験教室にて「和泉川・地蔵原の水辺で生き物観察会」を開催、子どもと保護者が一緒に川に入って生き物捕りに挑戦し、捕った生き物の観察学習を行っています。夏休みには、神奈川工科大学、神奈川ウォーターネットワークとの共同事業で「中津川生きものしらべ教室」を開催、子どもたちは、大学教授から生き物の名前や生息環境を学び、大学生からは水質検査の測定器などを使って水質検査を体得しながら川の環境を守ることを考えてもらっています。今年もこれらの事業を続け、



子どもたちや保護者に水辺の生き物に親しむことを通して「水」の大切さを体感する事業を進めていきます。

◀地蔵原の水辺で生き物捕りに挑戦する子どもたち